

# 公益財団法人 かわさき市民しきん

## 2018 年度 事業報告書

### 1. 「かわさき市民しきん」の目的

当財団は、市民や企業の志のある寄付を募り、社会の課題解決や地域の活性化などの公益活動を応援し、川崎を誰もが暮らしやすく、人や命にやさしい地域にすることを目的とする。

### 2. 「かわさき市民しきん」が目指すもの ～「かわさき市民しきん」が目指す未来の川崎～

- ・寄付することが“自然”、“かっこいい”と思う市民が増える。
- ・市民自らの手で、川崎というコミュニティを豊かで快適にしていこうという気持ちが集う。
- ・コミュニティのなかで市民の「お金」がスムーズに循環し、自立して持続できる社会となる。
- ・寄付し、寄付されることで、市民の生活や気持ちが豊かで、快適になることを市民自身が実感できる。
- ・市民が積極的にかかわり、ワクワクして、サポートしたいと感じるプロジェクトに「お金」が集まる。

### 3. 2018 年度を振り返って

2018 年度は公益財団法人として 1 年目、財団の設立からは 4 年目の事業となりました。

11 月にこれまでお世話になった方々を中心に、公益法人化記念パーティーを開催しました。改めて、かわさき市民しきんが多くの方に支えられていることを実感することができました。

[事業支援しきんあとおし 2018]では、2017 年度は対象事業がなかった反省をいかして、直接の声掛けや、積極的なマスコミ対策を行い、応募数は 6 事業で対象事業は 4 事業になりました。

[意思実現しきん いしずえ]の報告と、[課題設定しきん たくわえ]のキックオフを同時に開催し、2019 年の子ども食堂基金の設立に向けて動き始めました。

川崎市から受託を受けているプロボノ事業についても、より市民が自発的にかかわっていくような仕組みとして「川崎プロボノ部」を運営し、多くの方が地域の活動にかかわる機会を提供しました。

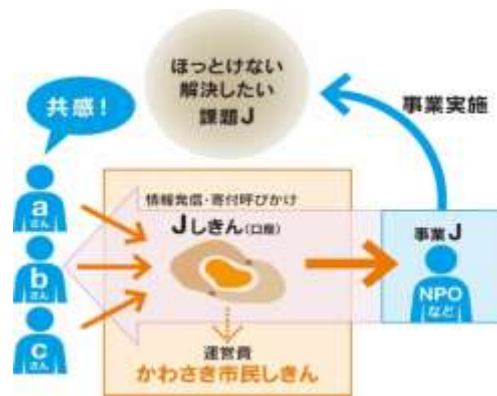
公益法人化という追い風を受けて、地域の中での取り組みに共感し、身近な形で寄付ができる地域づくりに向けて、まずは第一歩を踏み出しました。ここから、次年度以降につなげていきます。

### 4. かわさき市民しきんの主な事業報告

#### (1) 助成プログラムの実施

##### ① 事業支援しきん あとおし

「川崎で今、何が必要か?」「川崎の課題は何か?」。実際に川崎市内で活動する NPO などから、今必要とされている事業を募集します。そして、当財団を通して、それを広く市民に訴えその解決策(= NPO などが行う取り組み)への寄付金を事業ごとに集めます。寄付者は支援したい事業を選んで寄付をします。集まった寄付金から運営経費(寄付金の 15%)を引き、それぞれの事業に助成します。



## ◆2018年度の「あとおし」実施報告

### ・助成対象事業の募集及び選考

募集説明会：6月16日（土）午前中 会場：かわさき市民活動センターAB会議室

6月21日（木）夜 会場：高津市民館第2音楽室

対象事業募集期間：7月2日（月）～7月31日（火）

説明会や個別相談会に来た団体は16名13団体、実際の応募数は6事業（団体）でした。

選考委員会：9月4日、選考委員5名中4名出席1名欠席

6事業の応募のうち5事業が対象として選考されました。1事業は設立から1年未満ですが、準備期間を入れて1年という判断でギリギリ応募を認めましたが、これまでの実績を評価できず、提案事業が明確ではないという理由で、選考を通ることができませんでした。また選考された5事業のうち1事業は団体の代表から個人的な事情により実施不能になった、ということで、辞退申し出あり、実際の対象事業は以下の4事業となりました。

#### ①親と子、親と親、そして親子と地域をつなぐ、「赤ちゃんとのかかわりあそび」

実施団体：高津子育て支援隊パウパウ

#### ②不安を抱える女性たちへ、安心できる暮らしにつなぐ相談事業を！

実施団体：NPO法人 ウィメンズハウス 花みずき

#### ③障がいのあるなしに関わらず、誰もがダンスで幸せになるビデオを創りたい！

実施団体：NPO法人 ダンスラボラトリー

#### ④市民の手で未来につなげたい、なかはらミュージカル

実施団体：なかはらミュージカル実行委員会

### ・研修会：潜在的な寄付者を掘り起こすファンドレイジングの計画づくり

9月26日（水）夜 高津市民館第5会議室

講師：徳永洋子さん（日本ファンドレイジング協会理事、ファンドレイジングラボ代表）

この研修は「あとおし2018」対象団体だけでなく、一般参加者も対象にしておりましたが、ほとんどの参加者は対象団体の方でした。対象団体の方からは、とても参考になったという意見があり、これをもとに寄付募集の計画を作成し、寄付ブック作成をしました。

### ・ドネーションパーティ：12月15日（土）午後 会場：エポック中原大会議室 参加費：1500円

フルーチェ（フルーツ演奏のトリオ）、funiさん（川崎南部で活動しているラッパー）にオープニングやクロージングの演奏者として登場してもらい、対象事業の紹介も「なかはらミ

ュージカル」や「ダンスラボラトリー」のパフォーマンスがあり、出演者は多かったのですが、一般の参加者が少ない結果でした。前述の団体以外の方からは、あまりにも自分たちの活動と違いすぎて、華やかさに圧倒された、と批判的な意見が出されました。やはり「ドネーション」というストレートな言葉への違和感があるのか、今後の見直しが必要です。

・寄付募集について 期間：2018年12月1日～2019年3月15日

今回は初めて目標額に達成した団体がありました。目標額は高くなかった、という理由もありますが、該当団体にとっては達成感があり、これまでかかわりのなかった人たちへの広がりを感じた、と寄付者名簿を見て意見を出してくれました。それと寄付額にばらつきがあるのは、当該団体の寄付募集の取り組み度や、当該団体の他の事業との関係などによるものだと思います。

今回は初めて市内の企業訪問を半分の対象団体と一緒に行うことができました。企業に理解してもらえれば、協力が得られることが見えてきました。今後は税金の優遇制度を十分に宣伝し、企業への働きかけを進めていく必要があります。

寄付時期については、12月が27%、2月が55%となっていますが、これはそれぞれの団体の寄付活動やイベントに関係していると思われます。

今回初めて寄付者の性別で男性が優位になりましたが、これは同じ事業への寄付者の経年比と違い、対象事業が変化しているのです、その対象事業によるものと思われます。

・仕組みの見直しについて：

4年間で3回のあとおし事業を行い、期間や時期の問題、仕組みの問題など見直しを検討する時期に来ているのではないかと思います。

寄付募集結果

	団体名	寄付総額	寄付者数	目標額	達成率	助成金
①	高津子育て支援隊パウパウ	151,750	18	500,000	30%	128,988
②	なかはらミュージカル実行委員会	203,489	23	800,000	25%	172,966
③	ウィメンズハウス・花みずき	247,750	28	244,000	102%	210,588
④	ダンスラボラトリー	695,750	62	820,000	84%	591,388
	総合計	1,298,739	131	2,364,000	55%	1,103,928

◆「あとおし 2016」の3事業の実施事業報告について

対象団体はそれぞれ集まった寄付金額の範囲で2017年度に事業を実施し、その報告会を6月の募集説

明会と同時に開催しました。3事業の具体的な内容については、ニュースでも取り上げ、報告を行いました。

## ②意思実現しきん いしずえ

特定の目的のための“しきん”を当財団がお預かりし、その目的のために活動するNPOなどへ助成するプログラムです。思いを形にして残すことができたり、故人の思いを後世に伝えることもできます。名称は自由に付けることができ、助成対象やテーマを指定することができます。事例として以下を参照。

- ・創業などの周年事業として、地域社会への恩返しを目的とした助成
- ・家族のご逝去にあたり、その方の志を残すための助成

### ◆2018年度の「いしずえ」の実施報告

2017年度に7団体を対象に実施した子ども食堂応援助成の報告会を開催しました。7か所の子ども食堂を、専修大学の学生の皆さんと一緒にヒアリング調査を行い、実施の様子をまとめて報告しました。

日時：2月23日（土） 14時～16時 場所：PASAR BASE(武蔵新城)

参加者：約10名



## ③課題設定しきん たくわえ

新しい仕組みとして、課題設定しきん「たくわえ」をスタートしました。川崎が抱える課題の解決や地域の活性化を目指すテーマを設定し、その活動について寄付を集めます。集まった寄付を、そのテーマで活動するNPOなどが行う活動に助成します。2018年度は、2017年度に実施した、「いしずえ」の子ども食堂助成から、「子ども食堂基金」を2019年度スタートするため、いしずえの事業報告と一緒に、キックオフミーティングを開催しました。

## ④寄付文化創造に向けた講座・セミナーの開催

広く地域の課題解決に取り組む個人や団体に向けて、下記の通り、寄付文化創造のための講座・セミナーを開催しました。これはあとおし対象事業向けのセミナーとしても実施しています。

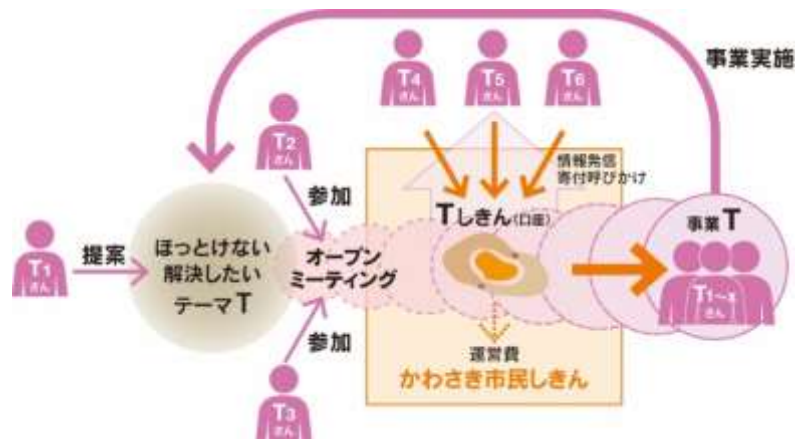
- ・研修会：潜在的な寄付者を掘り起こすファンドレイジングの計画づくり

9月26日（水）夜 高津市民館第5会議室

講師：徳永洋子さん（日本ファンドレイジング協会理事、ファンドレイジングラボ代表）

参加者は10名、そのほとんど「あとおし2018」の対象団体の方で、今後はもう少し参加者を外向けに宣伝する必要があります。まだ一般の市民活動団体に寄付募集のための研修といても、そこまでは余裕がないのが現実かもしれません。ただ参加されたあとおし対象団体の方からは、とても参考になったという意見がありました。

## (2) 調査研究事業 共感共鳴しきん えんたく



独自のテーマ設定で川崎のさまざまな活動を調査・研究するプログラムです。参加者は「こども」「環境」「介護」など、川崎が抱える課題の解決や地域の活性化を目指すテーマを当財団とともに提案し、運営に関わることができます。提案者は助成に必要な資金を当財団と一緒に集め、主体的にプログラムを展開します。

#### ◆2018年度「えんたく」の実施報告

2018年度は、2016年度に発足した、じもと川崎の魅力を発信する「チームもぎたて！」の活動を支援しつつ、今後の「えんたく」の進め方について検討を行い、次年度以降遺贈について、調査・検討することになりました。

### (3) 相談・支援事業

#### ①川崎プロボノ部 2018の実施

2016年度に川崎市が行うプロボノ事業のノウハウ移転先として支援を受け、2017年度はプロボノチャレンジ KAWASAKI2017として実施したものを、2018年度は川崎プロボノ部として川崎市の委託を受け、実施しました。市民が市民を支える環境整備を実現することを目指して取り組みました。

#### ■実施内容

オープニングセミナー、説明会の開催：7回

支援団体：8団体、参加プロボノワーカー：31名、運営委員 6名

プログラム：オリエンテーション、キックオフミーティング、成果提案、振り返り会  
報告会の開催

#### ■成果

- ・ NPO・市民活動団体等へのプロボノプロジェクトでの支援の浸透

川崎市内で活動する8団体を支援先団体としてプロボノプロジェクトを実現し、各団体の抱える課題をプロボノによって整理、解決等の支援をいたしました。参加した100%の団体が高い満足度を示しました。今年度の参加団体は、過去の支援先団体関係者からの紹介や、過去の市内のプロボノの事例を見て応募されている団体もあり、高い満足度は次年度へのつながりを見せています。

団体の抱える課題は様々ですが、プロボノという第三者の視点が入ることにより、団体の活動が活性化するきっかけになります。

- ・ プロボノコミュニティの構築

今年度は継続的なプロボノ活動、プロボノコミュニティの構築を目指してきました。将来的なプロボノ

コミュニティの担い手となる運営委員制度を導入しました。運営委員の今年度の目的は、プロボノプロジェクトの円滑な運営にありました。その点では、運営委員の方々は的確なアドバイスをして、プロジェクト進行において、大変有効で、当初の目的は達成できました。

今後は、運営委員制度を軸として、プロボノ経験者の継続的な参加、より多くの方に参加してもらえりような仕組みを作っていく必要があります。

また、川崎市内企業の社会貢献活動や人材育成という観点でのアプローチを実施して、川崎商工会議所の部会代表者会議や日本電気（株）内での紹介を実施することができました。継続的な活動をするためにはこのような企業との連携が必要です。

## ②川崎住宅奨学金事業への支援

一般財団法人川崎住宅奨学会の奨学金事業について、学校への案内や応募者の取りまとめなどの支援を行いました。2018年度は2年目ということで、継続10名新規10名合計20名の奨学生が選定されました。

## (4)その他の事業

### ①寄付者獲得プロジェクト

2018年度は、川崎市内で趣旨説明や寄付を募る「市民しきんマーケット」は開催しませんでした。

かわさき市民しきんが集めた寄付金の使われ方が広く見えるよう、寄付の「見える化」を推進するための「市民しきんサイト」の運営を行いました。また寄付募集のツールとして、クレジット決済のサイトが活用されています。HPについては、今後検討の予定です。

### ②寄付者定着プロジェクト

ウェブサイトやメールマガジンを通じて、活動の報告を行いました。

メールマガジンの発行 3回 ニュースの発行 1回

来年度は情報発信に力を注ぐ必要があります。

## (5)賛助会員制度

上記の事業を実施するために、趣旨に賛同する企業や個人を対象に、賛助会員制度を設けています。このような寄付を促進し、社会の課題解決や地域の活性化をしていく公益財団法人「かわさき市民しきん」のプログラム自体に賛同し、応援してくださる方を対象とします。

### ①パートナー賛助会員 年会費 50万円

企業にとっても、CSR活動や人材育成の活性化につながるよう、プログラムに様々な形で参加できる制度。

企業の人材育成＝プロボノ参加（若手、シニア社員）、協働CSRマーケティングなどの価値を、地域課題解決に取り組むNPOなどへの支援を行う中で一緒に共創します。

### ②賛助会員 企業・団体 1口1万円、5口以上で賛助会員証を発行。

### ③個人会員 1口5千円

## ◆2018年度実績

賛助会員 3団体、個人31名（昨年度比1団体、個人8名増）賛助会費270,000円（15,000円減）

応援寄付：1 団体、個人 15 人（個人 4 人増） 合計 205,268 円（109,580 円増）

課題：昨年度末に公益法人化でき、それをメリットにして、特に企業などの賛助会員の増加を目標にしましたが、そこまで手が回らず、企業の賛助会員獲得はできませんでした。個人の数も 8 名増え、当法人宛の寄付金は昨年度より約 10 万円増えました。企業・団体からの寄付集めは今後の課題です。